

今すぐ TNTmips DV2010 の新機能をお試し下さい。

(現在 TNTmips 2009 をお使いの方は、TNTmips DV2010 を無料でダウンロードできます。)

2009 年 7 月

システム

ジオカタログの自動更新

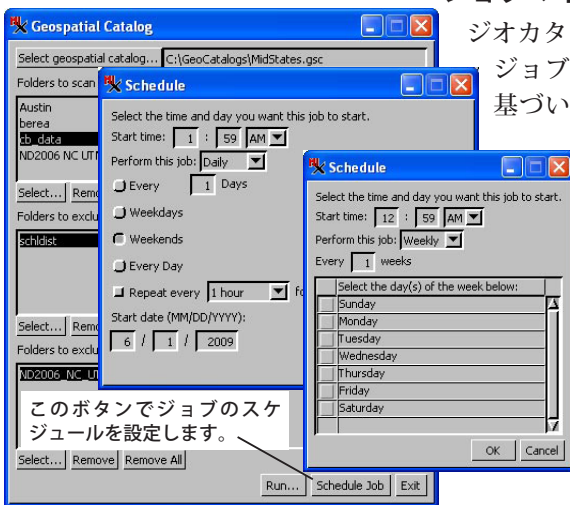
TNTmips の地理空間カタログ (ジオカタログ) 機能を使えば、何百あるいは何千ものプロジェクトファイルや直接使用が可能なタイプ (例: *.tif, *.jp2, *.shp) の地図や画像データファイルから、地理的な位置を参照してデータを選択できます。この TNT 処理についての詳細は、テクニカルガイドの「システム:ジオカタログの作成 (System: Making Geospatial Catalogs)」と「ジオカタログの使用 (Using Geospatial Catalogs)」をご覧ください。

更新して (例えば、具体的な日付、もしくは第一日曜日といったように)、何月から何月まで更新を実行するか設定できます。

ジオカタログ毎に異なる周期でスケジュールを設定できます。例えば、個人的なプロジェクトは毎時更新、作業グループまたは稼動中の特定のプロジェクトのジオカタログは毎日更新、アーカイブに関しては毎週末更新といったことも可能です。

ジオカタログの更新のスケジュールリング

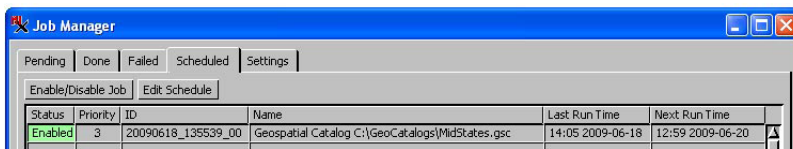
頻りに新規の TNT プロジェクトファイルや他の地理データファイルを追加したり、修正する場合があります。頻りに追加や修正を行うと、ジオカタログによって索引化が行われる地理的範囲や他のプロパティに影響を及ぼします。これらの変更を最新なものにしておくために、自分のジオカタログを定期的、かつ、できる限り頻りに自動更新するよう設定しておく便利です。TNTmips PRO 2010 開発版の「ツール / 地理空間カタログマネージャ (Tool/Geospatial Catalog Manager)」では、ジオカタログを最新の状態に保つため、ジオカタログの作成と同時に自動更新のスケジュールリングが可能です。自動更新スケジュールは、「ジオカタログマネージャ」にある既存のジオカタログを選択し、[ジョブのスケジュール (Schedule Job)] ボタンをクリックすることで、いつでも設定できます。



ジョブマネージャによる実行

ジオカタログの自動更新は、バックグラウンドで TNT ジョブマネージャによって XML ジョブファイルに基づいて実行されます (以下のサイトで、TNTmips Pro のジョブ処理に関する一連のテクニカルガイドを参照して下さい: <http://www.microimages.com/documentation/JobProcessing.htm> 翻訳: http://www.opengis.co.jp/hm/CPmasterindex_j.htm)。ジョブマネージャは *.tntjobschedule という拡張子をもつジョブファイルを、*.tntjob という拡張子をもつ保留中の一度だけ実行されるジョブを含むフォルダに追加します。ジョブマネージャはこの特別な拡張子を認識し、ファイル中のパラメータを使って、キャンセルするまでスケジュールした各ジョブを繰り返し実行します。ジョブフォルダが既にある場合はそのフォルダを使い、まだ作成していない場合は作成するよう促されます。ジョブフォルダに追加されたスケジュール済みのジョブは、自動的に実行を開始し、*.tntjobschedule ファイルで指定した周期で繰り返し実行するようになります。ジョブマネージャを使って、いつでもスケジュールしたジョブを中断したり削除することができます。

ジオカタログの更新のためにスケジュールしたジョブを実行するタイミングと更新周期は、完全にコントロール可能です。上の図の <スケジュール> ウィンドウ下部にある選択肢は、オプションメニューの [このジョブの実行 (Perform this Job)] で選んだ選択肢によって変わります。この選択肢には、「毎日」、「毎週」、「毎月」があります。「毎日」を選んだ場合は、時間、分という更に短い間隔で更新周期を指定できます。「毎月」を選んだ場合は、毎月いつ



オンデマンドの更新

定期的な更新を設定しなくても、いつでも即時にジオカタログを更新できます。ジオカタログマネージャで更新したいジオカタログを選択し、[実行 (Run)] ボタンを押すだけです。

